【2026 年度/教養科目領域/学術科目群】

科目名	ナンバリング	区分（必修・選択）	単位数	履修年次	開講学期等
国際関係論		選択	2	1.2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
白川　浩道	B312	hiromichi.shirakawa			

授業の目的・概要	本科目の目的は、国際社会の基本的な仕組みに関する知識を習得し、現代の国際社会が直面する様々な課題の考察を通じて、国際情勢の変化を的確に分析できる基礎的な能力を身につけ、国際感覚を備えた多角的視点から地域社会やコミュニティの課題に取り組むことができる資質を養うことである。 経済発展や技術進歩等によってヒト、モノ、カネの国家・地域間の移動は大きく拡大し、国際化が進展した。「今後、日本は、そして私たちは、国際社会においてどのような役割を果たすべきなのか」という点を常に念頭に置きながら、授業を進める。国際関係や国際交渉の概要を学んだ後、現代国際社会におけるホット・トピック、日本の国際協力や海外支援の動向、文化・芸術の国際交流の意義や山梨県の国際化の現状、について調査研究・考察・討論を行いながら理解を深める。
授業形式・方法	☑対面授業　☐遠隔授業(双方向型)　☐遠隔授業(自主学習) ☑講義　☐演習　☐実習　☐実技 ☑PBL　☑反転授業　☑ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ・ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ　☑ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ　☑ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ　☐実習・ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ　☐その他（　）
学習上の助言	1. 主要国と日本の間の経済・文化交流に関するニュースに関心を持つこと。 2. 国際紛争、移民・難民問題、領土問題に関するニュースに関心を持つこと。 3. 授業で使用する参考資料（事前に送付）に目を通すこと。
教科書	使用しない。
参考書	適宜紹介する。
外部教材	特になし。

	学生が達成すべき行動目標	関連卒業認定・学位授与方針
①	国際交渉、国際協調、国際機関の役割について、基本的な事柄を説明できる。	HSU(2)、(5)、(6)
②	現代国際社会が抱える主な課題について、基本的な事柄を説明できる。	HSU(2)、(5)、(6)
③	国際社会における日本の役割について、基本的な事柄を説明できる。	HSU(2)、(5)、(6)
④	国際化が地域社会や自身の生活に与える影響と対応のあり方を論じることができる。	HSU(2)、(5)、(6)
⑤		
⑥		

授　業　計　画

回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間（時間）	
1	イントロダクション（目的、概要、日本にとっての国際化等）	講義	事前に参考資料に目を通す。事後に復習、疑問点等を整理。	4
2	国際関係概論（1）：国家とは何か、国際関係とは何か、国際協調とは何か、等を学ぶ	講義	事前に参考資料に目を通す。事後に復習、疑問点等を整理。	4
3	国際関係概論（2）：二国間関係、多国間関係、両者の整合性、等を学ぶ	講義	事前に参考資料に目を通す。事後に復習、疑問点等を整理。	4
4	二国間関係の考察：日米、日中、米中、米欧等の、世界の主要な二国間関係を学ぶ	講義	事前に参考資料に目を通す。事後に復習、疑問点等を整理。	4
5	多国間関係の考察：国際交渉の基本的な枠組み、国際機関（国連、NGO 等）の機能と役割を学ぶ	講義	事前に参考資料に目を通す。事後に復習、疑問点等を整理。	4
6	国際社会のホット・トピック（1）：米国の輸入関税（相互関税）政策を理解し、考察する	講義 PBL、GW	事前に参考資料に目を通す。事後に復習、疑問点等を整理。	4
7	国際社会のホット・トピック（2）：資源、エネルギー、地球温暖化問題の現状を理解し、考察する	講義	事前に参考資料に目を通す。事後に復習、疑問点等を整理。	4
8	国際社会のホット・トピック（3）：主な地域紛争、難民・移民問題の現状を理解し、考察する	講義	事前に参考資料に目を通す。事後に復習、疑問点等を整理。	4
9	国際社会のホット・トピック（4）：主な領土問題、宇宙開発問題の現状を理解し、考察する	講義	事前に参考資料に目を通す。事後に復習、疑問点等を整理。	4
10	日本の国際協力・海外支援（1）：基本的な枠組みを学び、現状と課題を考察する	講義	事前に参考資料に目を通す。事後に復習、疑問点等を整理。	4
11	日本の国際協力・海外支援（2）：近年の具体的な事例を取り上げ、考察する	講義 PBL、GW	事前に参考資料に目を通す。事後に復習、疑問点等を整理。	4
12	文化、芸術の国際交流：日本と諸外国の国際文化交流の現状を学び、課題を考察する	講義	事前に参考資料に目を通す。事後に復習、疑問点等を整理。	4
13	山梨県の国際化：現状を理解し、課題や今後のあり方を考察する	講義	事前に参考資料に目を通す。事後に復習、疑問点等を整理。	4
14	プレゼンテーションと討論（1）	発表、討論	発表者はプレゼンテーションを準備。事後に討論を復習。	4

15	プレゼンテーションと討論（2）	発表、討論	発表者はプレゼンテーションを準備。事後に討論を復習。	4
試	レポート試験（期末レポート）			

達成度評価							
総合評価割合（%）		試験	レポート	成果発表	ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ	その他	合計
		0	40	30	0	30	100
総合力指標	知識・技術力	0	10	0	0	0	10
	思考・推論・創造する力	0	20	10	0	0	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	10	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	30	30
	問題を発見・解決する力	0	10	10	0	0	20

評価のポイント				フィードバックの方法
評価方法	行動目標		評価の実施方法と注意点	
試験	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
レポート	①	✓	期末レポート（第 15 回授業の 1 週間後を期限とする、本文テキスト 1,500～2,500 字）の内容を評価する。思考力、調査分析力、問題解決力に注目する。具体的な課題（複数提示されたものから各自が選択）、書き方の留意点、AI 利用の制限等については、学期半ばまでに提示する。	評価、コメントを付し、返却する。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤			
	⑥			
成果発表	①	✓	現代国際社会におけるホット・トピック（テーマは複数提示されたものからの選択制とする）に関する調査・考察・発表（第 14 回、第 15 回の授業で実施、各自の発表時間は 15 分程度の予定）の内容、討論における発言を評価する。着眼点、独自性に注目する。発表資料を提出すること。	発表資料にコメントを付し、返却する。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤			
	⑥			
ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
その他	①	✓	リアクション・ペーパーの提出状況を評価する（総合評価割合 30%）。	得点を付して返却する。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤			
	⑥			

備　考	
他担当教員	なし。
教員の実務経験	なし。
実践的授業の内容	なし。
そ　の　他	1. 参考資料の送付、質問の受付、レポートの回収・返却等は Teams で行うので、通信環境を確保すること。 2. 授業の進捗度合い、履修者数、国際情勢の大きな変化等によって各回の学習内容を幾分調整・変更する可能性がある。その場合は事前に通知する。 3. 国際問題に関する海外の文献を利用することがあるので、一定の英語力があることが望ましい。